

クローズアップ NGO・NPO

国際交流NGO

ピースボート
スタッフ 竹内 法和

地球をめぐる、人と人をつなぐ船旅の30年

■ 待っていてくれる人がいる旅

ピースボートは、大型客船を使って国際交流の船旅をコーディネートしているNGOです。1983年に、数人の大学生が第1回のクルーズを企画して以来、2013年でちょうど30周年にあたります。これまで30年間に、特定のスポンサーを持たない独立した運営を続け、50回以上の地球一周クルーズを含む80回を超える船旅を実施し、世界200以上の港を訪問してきました。

のべ5万人以上となる参加者は、北は北海道から南は沖縄まで、全国各地から集まった人々です。0歳児から100歳の先輩方まで、さまざまな職業・経歴の方が世代や国籍を越えて参加されています。多くの方が世界に目を向けるきっかけをつくってきたピースボートの活動の広がりや、日本の国際化の一端を担ってきたと言えるかもしれません。

大自然を楽しんだり、世界の人たちと触れ合うということは、もちろん個人的な旅行でも可能でしょう。しかし、世界中の港で「待っていてくれる人がいる」旅というのは、ピースボートならで



2013年現在チャーターしている客船は、大型外航客船のオーシャンドリーム号

はの特徴と言えるかもしれません。難民キャンプやスラム街などで、現地のNGOや学生たちとともにイベントを行ったり、社会問題を学んだ

りすることで、そこに暮らす人々の目線から各地の理解を深めることができるのです。

※1回の地球一周の船旅の期間は、80日から110日前後。参加者の数は800人から1,000人前後の方が乗船しています。本文中のデータは2013年12月時点のもの。

■ 多彩なプロジェクト活動を実施

ピースボートは、船という空間を生かしたユニークなプロジェクトを多数実施しています。例えば、現地の要望を受けて支援物資を届ける「UPA国際協力プロジェクト」。楽器や文房具、コンピューターなどを集めた人自身が現地に届けに行く「顔の見える国際協力」を実現しています。

また、専門家による洋上ゼミと、寄港地でのスタディーツアーを組み合わせた「地球大学」という教育プログラムでは、将来NGOスタッフや国際機関など、さまざまな領域で活躍する「平和の創り手」を担う人材育成をめざしています。大学によっては、プログラムに参加することで単位を認めている所もあります。そうした活動の中で、今回は国際交流をテーマにした2つの事業をご紹介します。

■ 日韓共催のピース&グリーンボート

1つ目は、日韓の市民が協力して、同じ船でアジアを旅するピース&グリーンボートです。ピース&グリーンボートは、日本のピースボートと、韓国の「環境財団」というNGOが連携して運営しています。お互いの国から乗船した参加者が、平和と環境をテーマに洋上で普段着のつきあいを重ね

ながら、アジア各地をめぐるしていきます。2005年からはじまり、2013年10月には、第6回のピース&グリーンボートが実施されました。

ピースボートがはじまった1983年は東西冷戦下で、国境を越えること自体が困難な時代でした。しかも韓国は軍政のまっただ中だっただけに、当時はこのようなプログラムの実施は想像もできませんでした。現在も国家レベルでは、領土問題や歴史認識の問題など、いくつもの課題を抱える両国ですが、だからこそ、こうした一般市民同士の交流を通じて、東アジア地域が平和に共存していくためのビジョンをつくっていくことが重要だと考えています。



洋上は自由な日韓交流の場

■ 国境のない洋上だからできる、対話の場づくり

ピースボートでは、「船」というどこの国にも属さない平和的な空間を利用して、紛争地などの若者を船上に招き、ともに過ごして対話する場を提供するプログラムを実施しています。それが、2つ目に紹介するインターナショナル・スチューデント（IS）プログラムです。このプログラムを通じて、若者たちは対話することの重要性や、紛争解決方法を学び、下船後はここでの経験を元に、平和活動に携わります。

洋上での出会いをきっかけに、共同プロジェクトを始めたケースもあります。今も占領と紛争の続くイスラエルとパレスチナから乗船した2人は、船を下りてから、お互いの若者が出会い、対話する場をつくるプロジェクトを立ちあげまし

た。そのプロジェクトは現在、それぞれ1,000人以上が参加する大きな事業に進化しています。

このプログラムではこれまで、アジア、アフリカ、中東、ヨーロッパ、ラテンアメリカなど、世界各地の若者を招待してきました。私たちは出会ったことのない国の人を、ステレオタイプで見てしまいがちですが、ここでは実際に出会い、ともに生活する中で、その壁を取り払う試みを続けています。



対話をアピールするとともに演奏するイスラエルの女性（左）とパレスチナの男性（右）

■ 世界中の人と人とをつなぐ架け橋として

ピースボートが船を出してきた30年間、世界情勢は劇的に変化を続けてきました。東西冷戦の崩壊、9・11事件、世界の民主化運動、グローバル経済の影響力など、世界をめぐるながら、その現場を目撃し、さまざまな影響を受けてきたことは確かです。

しかし30年という時が流れても、ピースボートが最も大切にしてきたことは変わりませんでした。それは、船旅による国際交流を通して、国と国との利害関係を越えた、人と人がつながる草の根のネットワークを創っていくことです。活動を振り返ると、船旅に参加した一人ひとり、交流した一つひとつの出来事が、日本と世界とをつなぐ架け橋を実現してきたように思います。ピースボートは、これからも、日本に暮らす人々が世界に出て、理解を広げ、共感できる場を創っていくために、船を出し続けていきます。自治体関係者の方をはじめ、皆さんの参加をお待ちしています。